

米沢市総合計画審議会に係る意見・質問票

件名	前期基本計画施策評価（不登校支援について）
内容	<p>①不登校・不適應未然防止の支援体制を強化とあるが、具体的にどのような支援体制の強化を図ったのか？</p> <p>②スクールガイダンスプロジェクトの中で、適応指導教室（ガイダンス教室）を運営されているが、不登校の全生徒の内、何人が適応指導教室の継続した利用につながっているのか？</p> <p>またつながらない理由をどのように検証され、今後スクールガイダンスプロジェクトの見直しを図っていくのか？</p>
回答	<p>① 不登校・不適應未然防止の支援体制を強化</p> <p>平成29年度からは、全小・中学校へ適応指導員等を配置し、不登校・不適應等がみられる児童生徒、その児童生徒が在籍する学級の支援を行ってきました。また、同年から、学校教育課にスクールソーシャルワーカーを配置し、関係機関との連携を図り、家庭支援を行って来ました。</p> <p>平成31年度からは、特別支援教育について専門的な知識と経験を持つ教育相談員を配置し、学校や保護者からの相談を受けたり助言をしたりしています。また、学校教育専門員の配置と助言によって、学校における組織的対応を強化し、未然防止の体制づくりを図っております。</p> <p>② 不登校の全生徒の内、何人が適応指導教室の継続した利用につながっているのか？またつながらない理由をどのように検証され、今後スクールガイダンスプロジェクトの見直しを図っていくのか？</p> <p>平成30年度の継続した適応指導教室利用状況は、小学校では11.1%で、全国並みの利用状況となっております。中学校では7.6%で全国よりも利用率が高い状況です。※具体的な人数については公表しておりません。</p> <p>今年度は、学校・保護者・適応指導教室の連携強化に今まで以上に力を入れるとともに、発達障がいへの対応ができる教育相談員の配置も行ったことで、継続的に通室している児童生徒が昨年度よりも多い状況になっています。</p> <p>適応指導教室につなげられない理由は様々ありますが、多く見られるのは「人とかかわることが苦手である」「不安を感じて人が集まるような場所に行けない」という児童生徒の実態からくるものや「学校に登校させたいので、適応指導教室の利用を考えない」という保護者の考えによるものなどがあるととらえています。</p> <p>今後の見直しについては、これまでの反省をもとに今年度より教育相談員、学校教育専門員の配置による新たな取り組みを行っておりますので、成果や課題を検証しながら検討していきます。</p>